9/7 読書クラブ おひさまのおはなし会

読書クラブおひさまの皆さんによる紙人形劇や手遊びを行います。▶とき　9月7日(木)午前10時30分～▶ところ　総合福祉センター南館ひまわり▶対　象　乳幼児

9/16 ゆめっ子のおはなし会

▶とき　9月16日(土)午後1時30分～▶ところ社会教育センター幼児遊戯室▶対　象　小学校低学年、幼児

▶問合せ　いずれも、社会教育センター図書室　☎28・5449

児童書 まねきねこだ!!

(幼児向け)

高畠那生作（好学社）

たくさんのまねきねこが、パラシュートを背負って空から降ってきました。地面に着陸したまねきねこはすぐに動きだし、家や店の中に入り込んで、何かを探しています。まねきねこは一体何をするつもりなのでしょうか？

夫の定年

佐藤ゆかり著（ミネルヴァ書房）

男も女も真の意味で「幸せな定年後」を手に入れるためには一体何が必要なのか。5組の夫婦のインタビューを通じて、定年を迎えた人生の後半に、より良い夫婦関係を築く秘訣を紹介する。

真ん中の子どもたち

温又柔著（集英社）

台湾人の母と日本人の父の間に生まれ、日本で育った琴子は、中国語を勉強するため上海へ留学するが…。国境や言語を越えて自らのアイデンティティを探し求める若者の姿を描く青春小説。

豊山俳句クラブ

青山克己 選

草々の青き匂ひや早り道　坪井径子
下駄音もまじりし梅雨の待ち合い所　青山とも子
手のひらに一休みする蛍かな　水野眞弓
半円径に雨の香港きらめけり　谷崎琴
涼求め遊ぶ雀の水しぶき　平手英信
大夕立真っ只中に一軒家　岡島齋
またいつか赤いカンナの咲く家に　高木須磨子
わだかまり残したままに梅雨に入る　田村多喜子
梔子(くちなし)の匂ひに顔を近づけり　坪井昭子
約束を果たせぬままに夏帽子　杉浦みどり
川音や風に群れ立つ半夏かな　小塚美枝
夕蛍橋のたもとの待ちぼうけ　石黒貴代子
日が暮れてしまへばそこは蟇(ひき)の闇　青山克己

豊山歌壇

水野笑子 選

花終へて若葉光れる桜木の梢に赤き小さき実ゆるる　佐藤良子
定年とて婿の初めて作りたるキウリ、ナス厨房にありて感謝す　柴田満枝
さ庭辺も萌黄の色が満ち満ちて我が暮しにもゆとり感じぬ　鈴木久子
枯木かと見てゐし枝に若葉萌ゆ卯の花咲きて夏は来にけり　鈴木弘香
杜若守るを語る老人の真夏の葦刈り住民の力と　中澤芳子
渡来人が開きしときく味鋺(かなもり)の地その「鋺」の字に由来を遺す　水谷弘子
常づねに死をば心の片隅にそおつと置くは老いへのけぢめ　水野勝代
今年また庭に蛙の声を聴く田のある暮らしに恵まる心地す　山田米
病院へと見舞に行けば病人の友は老いたる我を気遣ふ　渡辺トヨ子
安城も溜め池頼りに米作の時代もありしと聞き及ぶなり　荒川昌枝

編集後記

後藤はつのさんは、七十三歳から絵画を始めた。九十六歳にして、現代童画展で文部大臣賞を受賞されている。百十一歳のときには著書も上梓するほどのお元気さだった▼絵画を始めたきっかけは、お孫さんたちが成長して時間を持て余すようになったとき「何かしないとボケちゃうよ」というご子息の一言だったそうだ。絵画を続けること八年、頑張りが認められ、展覧会への出展の声がかかる。「上手く描こうとは思わず、好きなように」描いた絵が、冒頭の受賞作となった▼後藤さんは、今年の五月に百十三歳で泉下の人となった。その直前でも、「何かを始めるのに遅すぎることはない。できるかできないかではなく、やるかやらないか。そう、いつでも今から」と手記に記していた。歳だからと萎縮しないで、好きなことを楽しむ姿勢に励まされる▼町や町老人クラブでは、高齢者向けのサロンを定期的に開催している。十月には、地域で最期まで安心して生活するには何が必要かなどについて二市一町で話し合う「サミット」も開催される。ぜひ、お気軽にご参加を。